

感染症流行時における複合型災害の避難モデルについて

宮城県仙台第三高等学校 普通科26班

1. 探究の目的

新型コロナウイルスが収束を迎えるようとしている今、我々は次の感染症流行に備えて今から対策を練ることが大切だと考えている。東日本大震災規模までとはいかなないまでも、次の感染症流行時に複合型災害が起きた場合、どのように行動すればいいのか考えることで有効な避難が行えるのではないかと考えたから。

また、鶴ヶ谷との連携という観点を考えて通常の避難モデルでは配慮し切ることができない鶴ヶ谷の課題(高齢者の割合が仙台で一番高いなど)に対応することができる避難モデルを作成してみたいと考えたから。

4. まとめ

・探究を通して避難モデルを作る際にはシャワーや救援物資の配給時間帯の指定などあらゆる問題が発生する場合を考慮する必要があると感じた。また基本的に人が避難してくる体育館では地域ごとに体育館内のスペースを分け、避難してきた人を誘導しやすくなることが、避難民の精神的な安寧のためにも避難場所として重要であることがわかった。

・外部イベントに参加し、さらなる防災の知識を身につけることで、避難モデルの質を更に向上させていきたい。

・この避難モデルを通して鶴ヶ谷地域と連携し、鶴ヶ谷に合った特色のある避難モデルを制作することで独自性と深みのある探究にしていきたい。

2. これまでの活動と今後の展望

①これまでの活動

○防災ジュニアリーダー研修会の参加

2022年12月上旬、私達探究26班は防災ジュニアリーダー研修会に参加し、災害を経験した講師の方からの防災ならびに減災に関する講話や、避難所においての注意点などを学ぶ避難所運営ゲーム「hug」を皮切りに探究26班の活動内容の発表、他校の生徒との交流や意見交換などを経て、防災ジュニアリーダーに認定されました。

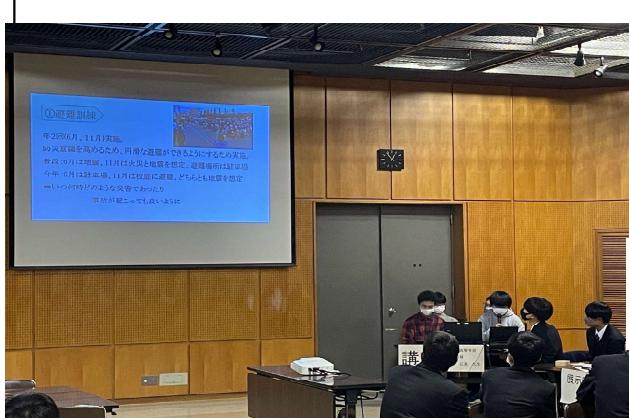
○校内アンケートの実施

全校クラスルームを通じて避難モデル作成に必要な情報を収集しました。

○3.11メモリアルday2023への参加

多賀城高校で行われた外部イベントである3.11メモリアルday2023に参加してきました。

宮城県内の学校だけではなく県外の高校の探求からもインスピレーションを受けることで探究活動をより良いものにすることができました。



←防災ジュニアリーダー発表の様子

○作成手順

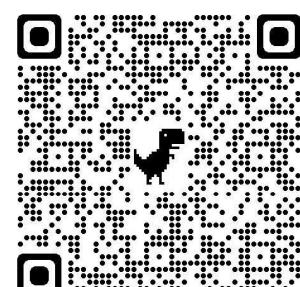
校内設備の確認

アンケート→

アンケートの実施

鶴ヶ谷の課題を考える

宮城県の避難モデルを閲覧、参考にする



○宮城県の避難モデルとの違い

鶴ヶ谷に適した避難モデルにした点

ex)高齢者の割合が多いため通路の幅を通常より広くした

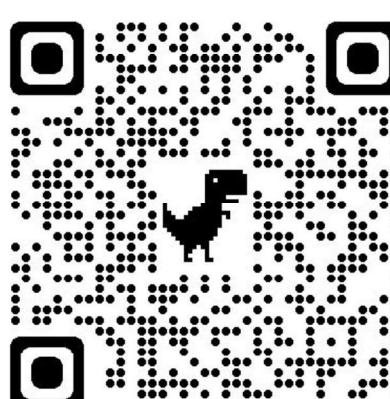
救援物資配給場所を居住スペースである体育館と同じ階にす るなどできるだけ共有スペースに段差を作らなかった

○1号と2号の違い

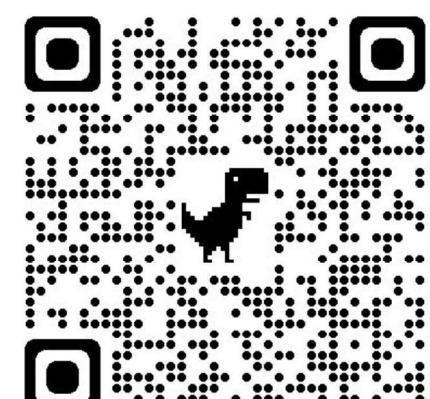
・避難者の配置を図を作成したことでのわかりやすさ

・デットスペースになりそうだった4階を若者に使用しても

らうことでの活用できた点



↑避難モデル一號



↑避難モデル二號

参考文献 (12~14p 太字 : MSゴシック)

- 1)仙台市避難所運営マニュアル https://www.city.sendai.jp/kekaku/kurashi/anzen/saigaitaisaku/hinanjo/documents/210302_sheet.pdf
- 2)防災ジュニアリーダーについて https://www.pref.miyagi.jp/documents/47829/20221205_bousai.pdf
- 3)探究26班アンケート用Googleフォーム https://docs.google.com/forms/d/1ebE0f3T1LxLiP0MPTP9f3UU4AZTjAqEsn_b8D4TSc0c/edit?ts=6465bef3#responses
- 4) 国土地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp/>